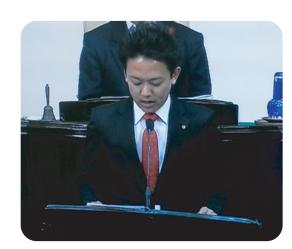
【コメント】

この質問は議員として、後押しするのでしっかり頑張って下さいという質問です。 「価値観の押しつけや!!」等の野次を頂き、少し残念な気持ちになりましたが、本当に大切なことですし、実現に向け引き続き取り組んで参ります。(佐々木)

②縦割りを廃し、文化芸術都市の実現を

【質問要旨】

文化首都を実現するためには、双京構想の実現、文化庁、観光庁の誘致などはもちろん必須であるが、これらの構想を実現すると同時に、京都における文化・芸術の裾野を広げていく必要がある。京都市では平成 18 年に「京都文化芸術都市創生条例」が制定され、それに基づき、「京都文化芸術都市創生計画」が策定された。ただ、この計画が京都市基本計画の分野別計画であるが故に、あくまでも局内や芸術大学、文化芸術関連施設等に展開が留まっており、その結果、限られた市民にしか京都市の取り組みが広がっていないのではないか。この計画が掲げる理念を



平成24年10月2日代表質問(佐々木議員)

実現するためには、分野別計画という枠を乗り越え、市役所全体でこの計画を実現していく体制の構築とアートやデザインという視点の共有が必要である。全庁一丸となっての取り組みこそが必要だと思うがいかがか。また、民間人の積極的な登用もすべきだと考えるがいかがか。

【答弁要旨】

文化芸術を担うのは、あくまでも市民の皆様であるという考えのもと、本市では、様々な文化事業を民間主導の実行委員会方式で進めるなど、市民の皆様を中心として事業の推進に当たっている。今後とも、市民の皆様や地域とのしっかりとした連携の下、暮らしの中に文化芸術がいきいきと息づく、世界の人々が集う文化芸術都市の実現を目指し、全庁一丸となって京都文化芸術都市創生計画を着実に推進していく。

【コメント】

「全庁挙げて取り組んでいく」と極めて前向きな答弁だったと理解しています。 この答弁をもとに、今後の委員会質疑等に臨んでいきます。(佐々木)

〇江村理紗議員(右京区)

■いじめ対応の強化に向けて

【質問要約】

全国の公立学校(小・中・高・総合支援学校)のいじめ件数は年間約7万件。陰湿化するいじめの実態に沿った新たな対策が京都市にも求められている。京都市の1000人当たりのいじめ認知件数は2件前後と、全国平均の約6件を大幅に下回る。これは一見いじめが少なく望ましいと言えるが、実態を見てみるといじめの実態と認知できていないケースが目立つように思われる。

いじめアンケートによるいじめ発見は2%と、全国平均の25%程度を大きく下回る。アンケートの内容が非常に簡素であることも原因の一つではないか。

例) アンケート比較

- ●「京都市いじめアンケート」(敬語略)
- (1) 友達とのことで悩んでいることはあるか。
- (2) 悩み事は次のうちどれか。〈選択式〉
- (3) 友達からどのようにいじめられているか。
- (4) いじめをなくすためにはどうすればよいか。
- ※(2) 以外、すべて記述式。



平成24年10月2日代表質問(江村議員)

- ●「熊本市いじめアンケート」(敬語略)
 - (1) 今の学年になって、いじめられたことがあるか。
 - (2) だれからいじめられたか。
 - (3) どんないじめを受けたか。
 - (4) 今もいじめは続いているか。
 - (5) いじめられたことを誰かに相談したか。
 - (6) だれに相談したか。
 - (7) 相談しない理由は何か。
 - (8) だれかがいじめられているのを見たり聞いたりしたことがあるか。
 - (9) いじめを見たり聞いたりしたとき、どうしたか。
- (10) 自由に使える携帯電話やパソコンを持っているか。
- (11) 学校が管理していない学校についてのホームページについて
- (12) 今の学年になって、「ネット上のいじめ」を受けたことがあるか。
- (13) どんないじめを受けたか。
- (14)「ネット上のいじめ」は今も続いているか。
- ※回答はすべてく選択式>になっています。

≪京都市と熊本市のいじめアンケートを提示≫

以上の例からも分かるように、京都市もより児童生徒の実態に沿った項目を盛り込む必要がある。 内容、回数、取り方への工夫、そしてアンケート結果から傾向と対策の策定に努めること。 また、多忙な学校現場に代わって教育委員会もいじめ解決に介入する強い意気込みをお示し

いただきたい。